

## 『能ある鷹もひけらかす』 Hさん



### 自己理解0のマウントモンスター

幼少期は障害なんて認識はまったくなかったので自分の凸凹なんて分からず、記憶力の高さを褒められると本当に天狗状態でした。人に知識をひけらかすことが大好きで、鉄道博物館に行くと他の入館者に解説をしちゃうような(笑) 言うなれば「マウント期」でしょうか。知識をひけらかすことに快感を感じていたんですよね。煽るような発言をしては叱られるようなこともありました。同時に、特性である「こだわりの強さ」なんて自分では全然理解できないから、イライラしてるんだけど「自分がなんでイライラしてるのか？」なんて分からなくて。でも正体不明のモヤモヤから思い通りにいかないことが少しあるだけでも周囲に当たり散らしている、そんな状態です。小学校低学年では人をいじめる立場でもありました。

そんな自分の転換期は小学5年生。発達障害と伝えられ、はじめは理解なんてまったくできませんでした。そのときの気持ちは「疎外感」という表現がピッタリな感覚。自分は他者とは違うんだという思いから距離を取るようになり、周囲から「なんだこいつ」という目で見られ。昔いじめた人たちからいじめ返されるようになりました。先生からの信頼もそのときにはゼロに等しくて「嘘だ」「因果応報だ」など言われていたし、自分も納得してしまいました。

いじめられた原因を突き止めると「障害」。疎外感や嫌悪感が自分から離れず、そんな自分も嫌でした。

### 腹の底から出た「死にたい」

中学校は受験をする気力もなく、近くの学校に入学したものの学力的にも追いつけなくて通えなくなりました。小学校の頃の悪評は消えなかったし、剣道部に入ってみたものの防具に対する感覚過敏の理解がなかったためやめてしまっ。放デイとプログラミングスクールだけに通う日々。焦燥感が強くなり、自殺を考えるまで落ち込んだんです。

しかし、中学校2年生でサポート校に入ることになりました。そこが今思うと「転換期」です。

サポート校は周りにも似たような状況の人が多く、居心地が良かったことを覚えています。先生は厳しい一面がありつつも優しくかったです。中学校3年生の面談のとき「我を出すことが多い」と言われたのですが、先生はそれを「悪いこと」というスタンスで話していた。自分の中では革命でした。私は「我を出すこと」が他人に不快感を与えることに気が付いていなかったからです。先生はその後も特に気にかけてくれました。

自分に対して「障害者」以外の結論があるのではないかとそんな風に思ったのは、このときが初めてでした。

### 「マウント」を「自己表現」に

通信制高校に入ってから、これまでの学力不足や逃げ癖がすぐ変わるわけではないのでレポートと格闘する日々でした。補習や追試でなんとか単位を保つような。リタイアできることを知っていたらやめていたかもしれません。

ティーンズの利用をはじめたのもこの時期です。実はティーンズで「高校どう？」と聞かれていたとき、ハッキリと答えていました(笑) ある程度話ができるので後輩に尊敬されたりもして。落胆の目で見られたくないから頑張っって赤点回避！なんてこともありましたね。

首の皮1枚の日々ではありましたが、後輩やティーンズのスタッフに肯定される生活は確かに自分を変えていきました。「嘘は嘘でも、なんとかできる嘘をつこう」「将来に目を向けてみよう」といった考えが生まれ始め、「自分の話をかっこよくしてマウントを取ってやろう」という思いだけでオープンキャンパスに行ってみたなんてことも。

自分の考え方が変わったこと、フリースクールをやめたこと、ティーンズで「説明が上手だね」と褒められ「マウント」が「長所」かもしれないと認識できたことで、気持ちが上を向き始めました。

その辺りで「放デイのスタッフさんみたいになりたい」という夢が生まれ、進路についてまじめに向き合うようになりました。将来の選択肢から専門学校や就労移行が消え、大学に行きたいという思い1本に。高校3年生の中期で進路先を決め、1カ月後には入試という異例のスケジュールですが、自身のプレゼン能力を発揮し成功することができました。

これからは自分の力で手に入れた大学生活。履修登録や資格取得など、これまでに経験したことのない未知の暮らしが始まります。おそらく苦しくなることもある。でも、これまでの経験を経て成長した自分であれば、また再起できる自信があります！自身のプレゼン能力が役立つ場面が増えることが楽しみです。

## ティーンズの後輩へ一言

伝えたいことは2つです。

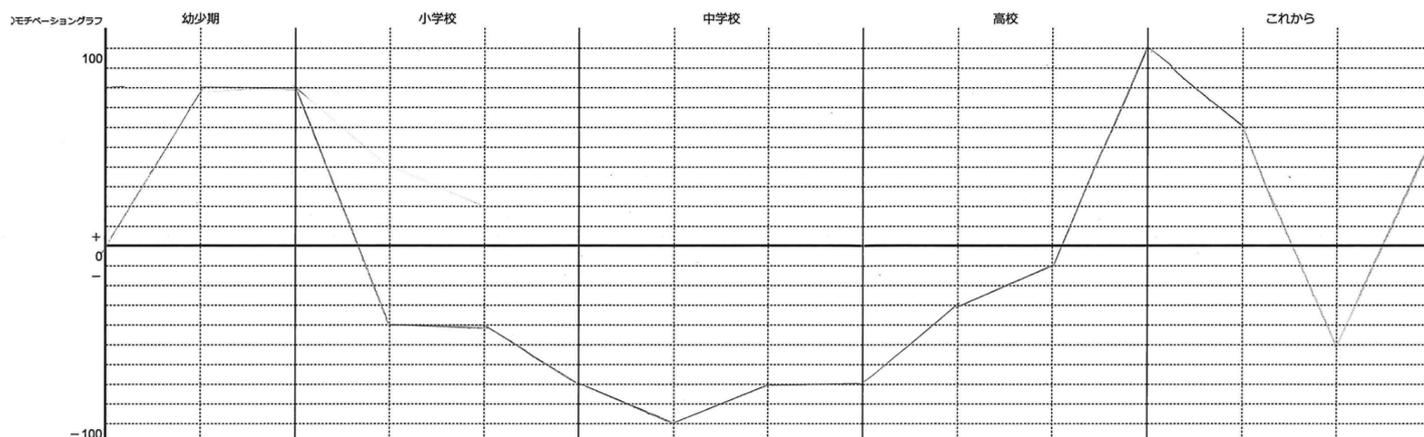
- ①自分のことを理解すると、意外なところに道がありますよ。
  - ②焦りや不安は悪いものではないです。そこでのあがきが、きっと自己理解につながります。
- 最後には大体が笑い話になるから、精一杯焦って、あがいて、そして笑ってください！

## 保護者とティーンズのスタッフへ一言

母へ。障害の可能性を考え、研究所に連れて行ってくれたこと。障害の診断後に市役所に行って受給者証の手続きをしてくれたこと。本当にありがとうございました。

スタッフさんへ。ティーンズのスタッフをはじめ、計8年以上放デイで支援を受けてきました。不登校に陥ったときには社会との唯一の関わりとして、精神的支柱となってくれた。感謝してもしきれません。本当にお世話になりました。ありがとうございました！

## 18年間のモチベーショングラフ



Hさん

小学校: 公立(通常級) ⇒ 中学校: 公立(通常級・不登校) ※中2からサポート校を利用開始

⇒ 高校: 通信制高校 ⇒ 大学進学予定

利用時期: 2023/2 ~ 2025/3 参加プログラム: お仕事体験・平日セッション

ティーンズで行っていたこと: お仕事体験・進路面談・相談・学習支援・息抜き

長所: 自己表現(プレゼン)能力・初対面に物怖じしない対人能力。困ったときにも相談できる。